

ウクライナ人道危機

ウクライナでは、各地で激化した戦闘により、インフラ被害や死傷者が発生しており、多くの方々が周辺国(ポーランド、ルーマニア、スロヴァキア、ロシア等)へ避難をしている状況です。

今回の戦闘激化の前から、ウクライナ赤十字社と赤十字国際委員会及び連盟は、有事の際の対応について協議を重ねてきました。

ウクライナ赤十字社は、2月24日の時点で首都の中心部にある本社機能を郊外に移転し、翌25日夜の情報では、本格的な支援活動は未だ始まっていないものの、食料など救援物資提供の準備を進めているとともに、ボランティアと職員の安全の確保に努めているとのことです。

ウクライナ赤十字社は、スタッフとボランティアの安全を確保しながら、暖かい衣服、食料、衛生用品などの必需品を集め、避難してきた人々のために避難所を提供しています。

また、ウクライナ赤十字社のボランティアは、防空壕や地下鉄の駅にいる1,000人以上の人々に応急手当のトレーニングを提供しました。



(左上)衣類や食料などの必需品配付の準備(C)ウクライナ赤十字社

(右上)応急手当のトレーニングを実施(C)ウクライナ赤十字社

(左下)ウクライナから逃れてきた人たちのためにテントを設置(C)スロヴァキア赤十字社

(右下)子どもにプレゼントを渡すボランティア(C)ポーランド赤十字社



近隣の赤十字社も、ウクライナから国境を越えて逃れてきた人々を受け入れるために、準備を進めています。スロヴァキア赤十字社は、ウクライナから到着した人たちのために一時的な避難場所を提供するためにテントを設置しました。

ポーランド赤十字社は、自国の政府や国連機関と協力して、8カ所の国境地点で難民の受け入れ態勢を整えています(22 個班を配備)。また、ウクライナとの国境沿いポトカルパチエのレセプションポイントにて、2月26日までに23人に医療支援を行い、子どもたちが少しでも安心して過ごせるよう、おもちゃなどのプレゼントを配付しました。